

英語教育リーディングスクールの取り組みについて

1. 英語教育リーディングスクールの概要

本市英語教育を牽引するリーダー校として、小中9年間を見通した小学校段階からの「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能のバランスを重視した英語教育推進及び教材開発等を行っている。特に「話すこと」に重点を置いた児童生徒の英語力やコミュニケーション能力の向上についての具体的な方策について実践を進めている。

今後は、新学習指導要領先行実施・全面実施を受けて、英語4技能によるコミュニケーション能力を確実に養うための実践を行い、全市に普及させていく。

指定校：浅川中学校、光貞小学校（平成28年度より2校指定）
洞北中学校、ひびきの小学校（平成29年度より2校指定）

【参考】英語教育の早期化について

平成32年度から新学習指導要領が全面実施となり、中学年では「聞く」「話す」を中心とした外国語活動（年間35単位時間）が新設、高学年では「聞く」「話す」に、「読む」「書く」の領域を加え外国語科（年間70単位時間）として実施される。

北九州市では、平成30年度より「外国語活動」と「外国語科」の新しい学習内容を段階的に実施した（先行実施）。

2. 英語教育リーディングスクールの具体的な取組

- (1) 小学校3・4学年の外国語活動及び第5・6学年の外国語科と中学校3ヵ年の外国語科におけるカリキュラムの連携、CAN-DOリスト（英語の到達目標を指標化したリスト）の作成及び活用
- (2) 本市指標である「中学校卒業段階での英検3級程度50%」達成のため、新学習指導要領の改訂の主旨を鑑み、4技能のバランスや技能統合を考えたコミュニケーション能力の基礎の向上のための授業づくりを行う。特に、本市の課題でもある「話すこと」「書くこと」におけるアウトプットの力を高める。
- (3) 「授業は英語で行うことを基本とする（解説書）」の主旨に沿ったオールイングリッシュで進める授業の在り方を研究。
- (4) 全国学力状況調査を見据え、パフォーマンス課題や「話すこと」を重視したパフォーマンステストの研究及び、実践を行う。
- (5) 「即興で話すこと」の力を高める指導方法の研究及び実践
- (6) 英検 IBA（英語能力判定テスト）による生徒の英語力の検証
- (7) リーディングスクールにおけるALTの常駐配置 など

3. 本年度の実践報告（公開授業）について

本年度の実践報告を以下の研究大会や研修会と兼ねて実施し、授業公開を行った。

期 日： 平成30年11月6日（火）5校時 14:00～

会 場： 北九州市立浅川中学校 体育館

大会参加者：182名（教職員及び学校関係者）

授業者： 指導教諭 波多野 皓一

単元名： Unit5 Living with Robots –For or Against–（第3学年）

（1）単元のねらい

○「ロボットとの共存」などのテーマについて、ペアでの意見交流を手だてとして自分の考えをまとまりのある英文で表現することをねらいとしている。

○I agree with your opinion. や分詞や間接疑問文など自らの考えや意見を相手に伝える言語材料を取り扱う。

（2）授業の流れ

① 導入（1分間チャット）

与えられたテーマについて1分間対話を行う。

1分間チャットの後、ファシリテーター（客観的な立場から進行のサポートを行う）役の生徒に自分の意見を述べさせ、ALTや他生徒の意見を学級全体に共有させる

Speaking [やり取り・発表]



【ファシリテーター役との共有】

② 展開

【授業で行う言語活動のテーマ（SDGs関連のトピックス）】

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 プラスチックストロー使用について | 2 ロボットとの共存 |
| 3 ペットについて | 4 英語学習は日本で必要か |

・選んだテーマについてペアで意見交流を行い、即興的なやりとりを行わせる。

※まず賛成か（I agree～）反対か（I disagree～）という表現を使って意見を主張し、その際理由も明確に伝える。 **Speaking** [やり取り]

・上記を手だてとして、終了後に広がったり、深まったりした内容を基に、再度、自分の意見をまとめる。 **Writing**

・代表生徒が自分の選んだテーマについての意見や考えをイラストや図表も使いながら、プレゼン形式で発表する。学級全体での即興のやりとりあり。

Speaking [発表]



【ペア同士での対話活動】



【全体での意見発表】